

## 1. 特に効果的であり改善に資した事例について

### A. コースワークの充実・強化

#### ①人材養成目的に沿った科目構成の整理

##### ●熊本大学社会文化科学研究科教授システム学専攻

##### 「IT時代の教育イノベーター育成プログラム」の事例

###### (具体的に何を実施したのか)

国際産学共同開発による「ストーリー型カリキュラム」を導入した。人材養成目的に沿って体系的に教育課程を備えた本専攻の先進性を更に進めるカリキュラム改革行い、より高い実践力の育成と理論的知識の血肉化を実現するために、米国カーネギーメロン大学で実績があるストーリー中心型カリキュラムを参照しつつ、我が国最初の試みとして、複数科目に共通する実践的応用場面のシナリオ（例：ある企業で集合型研修の一部をeラーニングに置換）を想定し、並行履修する複数科目をそのシナリオに関連付けすることで統合的な教育課程を導入した。

###### (実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

複数科目間で教育内容を調整する必要が生じたが、教員間の話し合いと調整で実現した。具体的には、本専攻の教育課程上の4本柱（教育設計学・情報通信技術・教育マネジメント・知的財産権）の導入科目を1年前期に揃えるために、1年後期に配置されていた2科目を段階的に1年前期に移動した。実践的応用場面のシナリオは既存科目とは別に準備し、学習ポータルサイトにシナリオ関連の情報を集結させる機能を独自開発した。

###### (どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

仮想的なシナリオを用いて大学院教育を実践的なスキル習得に結び付けようとする教授設計は、海外では成功事例があったものの、わが国においても実現可能であることが確かめられた。また、学生にとっては現実的な課題直結型の教育課程になったことが本試みでも実証され、大学院教育実質化の一つの方向性が示唆された。